



ミニ企画展

「空から見た沖縄県鉄道」 開催中!

ミニ企画展「空から見た沖縄県鉄道」を開催中です。

米軍は1944年以降、多くの空中写真を撮影しています。空中写真を見ると、駅や車両、線路などが写っていることに気付きます。攻撃を受けている痛ましい瞬間もありますが、カメラが捉えた鉄道を観察すると、暮らしのなかで機能する鉄道の姿が浮かび上がってきます。

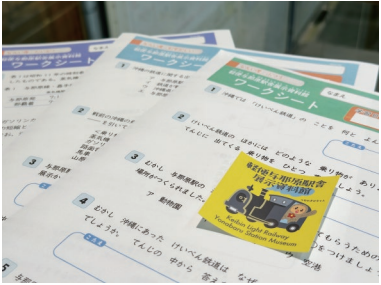
ミニ企画展では、当時と現在の空中写真を比較しながら、8駅の写真を展示しています。展示ケース2台の小さな展示会ですが、ぜひご覧ください。10月5日(月)までの開催予定です。



ワークシート実施中

8月14日より、館内でワークシートを配布しています。難易度は、小学生向けの「ふつう」、小学校・中学生向けの「むずかしい」、大人向けの「だいがく」の3種類。年齢に関係なく、どなたでも挑戦できます。今回は、大学入試問題をイメージした大人向けの問題も用意しました。展示をじっくり見ながら、ぜひ腕試しを試してみてください。

受付でワークシート用紙をお渡ししますので、館内の展示を参考にしながら答えを探してみましよう。記入後は受付で解答をお渡しします。さらに、参加された方には記念品としてステッカーをプレゼント! 資料館を巡りながら、いつもとは少し違った視点で展示を楽しんでみてはいかがでしょうか。



2026

9

月号

【発行所】
軽便 与那原駅舎展示資料館
与那原町字与那原 3148-1
TEL 098-835-8888

【発行人】
株式会社 YUKAZE (指定管理者)

学芸員実習生がきました

今年度は与那原町として初めて学芸員資格の実習生を受け入れています。当館と網走資料館の合同での実習です。

【自己紹介】

沖縄国際大学で博物館学芸員資格取得のため、今回当資料館にお世話になりました吉田と申します。元鉄道員です。8月17日から31日までのうち10日間の実習で、館の運営から来館者に対する対応など、多くのことを学ばせていただいています。

かつて軽便鉄道とやんばる船で、那覇と国頭を結んだ交通の要衝とした栄えたことや、沖縄の基幹産業の糖業との関りで鉄道輸送が大きな役割を果たしたことも学びました。また、鉄道の設備メンテナンスに従事した者の視点から、どんな設備が敷設されていたのかも大いに興味をもっています。

今回の実習を通じて与那原

駅舎コラム

利用者減少の背景

大正10年以降の『沖縄県統計書』には、駅ごとの利用者数が記されています。乗車と降車の人数があり、1人が与那原から那覇へ乗った場合、与那原・乗車1、那覇・降車1というカウントになります。統計のうち、国場・南風原駅が興味深い推移をしています。大正10年の統計では国場11万4千人、南風原6万5千人だったのに対し、大正14年に



町のみなさんが、軽便与那原駅舎への愛着を感じ、自分でも町の魅力を県内外に発信していきたいと思っています。沖縄が抱える交通渋滞の解消に、鉄道がどのような役割を果たせるのかも含めて考え続けていきます。

シミュレータ新料金

運転シミュレータは1回100円(子どもは1日1回無料)ですが、新たに4回300円プランを設けました。ぜひ、この機会にプレイ(練習?)してみてください。



公式サイト、SNS
<https://www.yonabaruekisha.com/>



@yonabaru_station



@keibin_yonabaru

与那原町立 軽便 与那原駅舎 展示資料館

戦前の沖縄にあった沖縄県鉄道(沖縄県営鉄道/軽便鉄道)。その与那原駅の駅舎を2014年度に復元しました。沖縄県鉄道の歴史や鉄道関係資料を展示する小さな鉄道資料館です。

開館時間 10:00 ▶ 18:00
 休館日 火曜日、12/29-1/3
 入館料 ¥100 (町外)

【入館料無料】町内在住・通勤通学/小学生以下/ゆいレールのフリー乗車券提示/「障害者手帳」をお持ちの方とその介助者/まち歩きガイドの一行/学習を目的とした団体の講師

は、3万1千人、2万8千人と落ち込んでいます(いずれも乗車降車合算値)。
 「営業報告書」によれば「財界不況ノ影響」で全体的に落ち込んでいるものの、国場駅は特に大きな落ち込みとなっています。原因のひとつとして考えられるのが大正11~12年の嘉手納線・糸満線の開業です。これまでに広範囲の需要を取り込んできた国場駅も隣に津嘉山駅などができたため、利用が分散したものであると考えられます。(学芸員K)